

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	42100	公衆便所維持管理費		担当課	水道部下水道課	内線	2264
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちめざして
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生
	項	2	清掃費		基本施策	1	快適に暮らせる環境を整備する
	目	1	清掃総務費		施策	4	公衆衛生の向上
	根拠計画						
実施計画事業	公衆便所管理事業、公衆便所整備事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	4,025,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・公衆便所の整備や維持管理を行い、誰にでも快適に利用できるようにする		
概要	事業の実手法(手段)	・年間通して快適に公衆便所を快適に利用できるように清掃等の維持管理を行う ・観光客等の動向とニーズの変化を見極め、公衆便所の整備、改修の必要性を検討する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・定期的な清掃の実施 ・不要となった朝日地区の公衆便所を撤去した					
	指標名 単位 目標・実績 H24 H25 H26						
	活動指標	公衆便所の設置	箇所	目標値	12	12	11
				実績値	12	12	11
		算出根拠等	所管する公衆便所の箇所数	達成率(%)	100	100	100
	活動指標	公衆便所の維持管理	日数	目標値	365	365	365
				実績値	365	365	365
		算出根拠等	トイレの維持管理日数	達成率(%)	100	100	100
	活動指標	公衆便所の新規整備	箇所	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
		算出根拠等	整備箇所数	達成率(%)			
	成果指標	公衆便所の維持管理に対する苦情	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
		算出根拠等	実際に寄せられた苦情	達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	13,136	15,860	14,275	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			13,136	15,860	14,275	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	3	4	4	
	受益者		(B)	3,769,000	3,945,000	4,025,000	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・本事業は観光客のみならず市民を含め、誰でも利用できる公衆便所の維持管理であり、老若男女、健康者、障がい者を問わず快適に利用できるよう、清掃等維持管理と整備を行っていくことは、国際観光都市高山においては必要条件であり、ニーズも非常に高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・公衆便所は誰もが利用できる公共性の高い施設である ・観光客の利便性の向上と衛生面の確保という観点からも市で実施することが必要
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・トイレの快適性維持のため、施設の利用状況に応じた清掃を行っており、衛生的に一定レベルは確保されている。清掃については民間業者に業務委託を行っており、よく起こる排水管のつまり等にもバキュームカーでの吸引等、即日対応ができており、維持管理については適切に行われていると考える
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・観光客等利用者に対する公衆トイレの利便性及び快適性は確保できておりコスト的にも見合った成果が上がっていると考えるが、利便性を確保した中での維持管理費の低減について、引き続き取り組んでいく必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・政策上においても総合計画に位置付けられており、観光客の高山滞在中の利便性と快適性の向上及び受入体制の充実は、国際観光都市高山にとって観光客誘致には不可欠であり、重要性は非常に高い
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・施設の整備・修繕・改修については、観光客等の動向と利用者ニーズの変化を見極めるとともに、継続して必要性の検討を行っていく必要がある
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・引き続き、清潔で使用しやすい公衆便所として維持管理を行っていく
----------------------	----------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・トイレにおける衛生面の確保と快適性の維持のため、清掃は定期的に行っている ・昨年度の利用者からの苦情は「0」であるが、今後も適正な維持管理と清掃時における利用者への丁寧な対応に心がけるよう、委託業者とも連絡を取り合う
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・引き続き、清潔で使用しやすい公衆便所として維持管理を行っていく					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	42115	浄化槽設置整備事業費		担当課	水道部下水道課	内線	2264
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちめざして
	款	4	衛生費		分野	5	上・下水道
	項	2	清掃費		基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る
	目	1	清掃総務費		施策	2	水洗化の普及
根拠計画							
実施計画事業		浄化槽整備事業補助					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	下水道整備計画区域外の市民	対象者数	626 世帯
	どういった状態にしたいのか(意図)	・下水道が整備されていない地域の家庭等に対し、浄化槽の設置を促進し、発生する生活排水を適正に処理する ・公共用水域の水質汚濁の進行を防止し、生活環境を向上させる		
概要	事業の実施手法(手段)	・下水道整備計画区域外の地域(浄化槽整備区域)で浄化槽を設置する市民に対して補助金を交付する ・特に建築年数が経っている既存の住宅については補助金を上乗せし、個人負担を大幅に軽減することで、水洗化を推進する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	浄化槽整備事業補助金交付実績 15件					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	浄化槽設置整備事業補助金交付件数	件	目標値	32	33	29
				実績値	22	18	15
				算出根拠等	交付件数	達成率(%)	69
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	24,061	16,389	16,069	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			8,841	4,224	3,099	
	一般財源			15,220	12,165	12,970	
コスト指標	受益者1件当たり円(A/B)			1,093.682	910.500	1,071.267	
	受益者	補助金利用者数(B)		22	18	15	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・浄化槽補助対象地域は下水道整備計画区域外であるため、補助金交付対象となる市民は限定されるが、排水設備の導入時に個人負担が軽減されることから、ニーズはある	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・下水道整備計画区域外の公共用水域の水質保全と生活環境の向上を図るうえで、浄化槽の設置に対して市が支援することは、住宅の水洗化を進めるためにも有効である	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・浄化槽補助交付件数は目標値を下回っているため市民に対し、個人負担が軽減できる補助制度を周知し、住宅の水洗化及び浄化槽の設置を促すように努める必要がある。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・補助額がそのまま市民の浄化槽設置に対する金銭的支援であるので、コスト＝市民への効果となり、補助希望者が増(減)すればコストも増(減)することとなる ・現行制度は国・県の補助も含まれているので、引き続き補助金の確保に努める	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・下水道整備計画区域外の市民が対象であるが、市長公約である「下水道の整備」の整備区域外の市民に対し、浄化槽の設置を促進、支援することで河川の水質汚濁防止と生活環境の向上を図ることは、政策的優先度は高い	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		7 / 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

・市民が住宅の水洗化に伴い浄化槽を設置する場合において、補助金により個人負担が軽減できる制度を知ることができるよう、様々な周知方法を活用し、浄化槽の設置を推進する

(参考) H26事業評価結果(二次評価)

・公共用水域の保全、生活環境の向上のため、補助事業を継続する

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況

・補助制度の周知にあたっては、行政サイドから市民への周知活動だけでなく、関係業者とも連携した周知活動をあわせて進めている

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・公共用水域の水質保全、生活環境の向上のため、補助事業を継続する						

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)						

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	42300	し尿処理施設管理事業費			担当課	水道部下水道課	内線
種別							2971
予算	会計	1	一般会計	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費	分野	6	環境・衛生	
	項	2	清掃費	基本施策	1	快適に暮らせる	
	目	3	し尿処理費	施策	5	し尿処理対策	
根拠計画							
実施計画事業 し尿処理施設管理事業、し尿処理施設維持修繕・改修事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	し尿汲取り及び浄化槽設置の市民	対象者数	12,874 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・処理施設を適正に運転管理を行うことで汚水を適切に処理し、公共用水域の水質保全と生活環境の向上に努める ・適切な維持管理を行うことで、施設の健全化及び延命化を図る		
概要	事業の実手法(手段)	・定期的な保守点検と清掃を実施するとともに、突発的に起こる修繕に対応し、継続して汚水の処理を行う ・専門的知識を有する業者に運転管理を委託し、汚水を排水基準内に処理する ・汚水の処理に伴い発生する汚泥(一般廃棄物)を適切に処理する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・定期修繕などを行い施設の機能維持を実施 ・処理施設において、処理した水は排水基準内であった ・委託業者の定期的な保守点検作業により機器等の故障による処理停止もなく、適切な汚水の処理を行った ・し尿、浄化槽汚泥の適切な処理の実施					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	し尿処理施設数	施設	目標値	2	2	2
				実績値	2	2	2
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	放流水の水質基準適合処理場	施設	目標値	2	2	2
				実績値	2	2	2
				算出根拠等	水質検査の結果	達成率(%)	100
	成果指標	機器故障、停電等によるし尿処理不能件数	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	事故報告件数	達成率(%)	
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
			実績値				
			算出根拠等	達成率(%)			
補足事項							
・通常の維持管理業務のほか、突発事故(停電、機器故障)発生時には速やかに対応した							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	181,764	185,189	184,252	
	受益者負担(使用料・負担金等)			5,511	5,473	5,473	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			176,253	179,716	178,779	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	12,258	12,489	14,312	
	受益者 し尿汲取り及び浄化槽設置の市民		(B)	14,828	14,828	12,874	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・生活排水等の汚水を速やかに処理するためには、施設の維持管理は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設の維持管理は市町村が行うことが原則であり、公共水域の水質保全と市民の生活環境の向上のためにも非常に重要な事業である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・処理した水は排水基準に適合する水質を維持している。 コスト削減を図りながら適正に施設の維持管理を行っており、成果指標の数値は達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・施設の運転管理は業者に委託しており、適切な管理がなされている。軽微な修繕等は受益者が行っており、コスト削減と即座の対応を意識した取り組みを行っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画、市長公約に基づき、施設の整備と維持管理を行っているが、市民の生活環境の向上と公共用水域の水質保全のため、生活排水等の適正処理を行っていくことの政策的な重要性は高い
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 8	→	100点換算 88 点

分析・評価で明らかになった課題 (FA)評価にするために何が重要なかを記入)

・機器の修繕にあたってはコストの削減に努めているが、突発修繕も発生している状況である
 ・計画的に設備の補修や部品等の交換を行うことにより修繕箇所を減らし、施設の延命化とコスト削減を図る必要がある

(参考) H26事業評価結果 (二次評価)

・し尿処理施設の適切な管理運営を継続して行っていく

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度への対応状況

・長期的な修繕計画を立てることにより、修繕費用の平準化を進めるとともに、より効率的な管理方法を検討している
 ・委託業者からもコスト削減に向けた事業提案を促している

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・施設の適切な管理運営を継続して行っていく						

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)						

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	11100	管きよ建設事業費	担当課	水道部下水道課	内線
	6	下水道事業特別会計	政策	3	2267
予算	会計	6	分野	5	
	款	1	基本施策	2	
	項	1	施策	1	
	目	1			
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画				
実施計画事業	下水道管きよ整備事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	公共下水道処理区域内の市民	対象者数	62,843 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・下水道の利用ができ快適な生活環境が確保されている		
概要	事業の実施手法(手段)	・老朽化したマンホール蓋を計画的に更新する ・下水道接続の希望者に対し、下水道本管までの管きよ整備を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・マンホール蓋の更新整備 (66箇所) ・取付管設置 (21箇所)					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	下水道整備面積	ha	目標値	2	1	0
				実績値	3	2	0
	算出根拠等			達成率(%)	150	200	
	成果指標	下水道整備率	%	目標値	100	100	100
				実績値	100	100	100
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	100
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	74,818	71,692	24,277	
	受益者負担(使用料・負担金等)			48,896	6,337	3,994	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			25,922	65,355	20,283	
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,183	1,135	386	
	受益者		(B)	63,232	63,159	62,843	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・町内会からの下水道未整備地区解消を求める要望がある ・新たな下水道接続の申請者がある
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・高山市の地形条件より、公共下水道は2以上の市町村が受益できる施設でないため、事業主体を見直す余地はない
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・下水道整備率はほぼ100%と高い
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・埋設深、管路布設ルート等を検討しコスト削減を図っている ・管きよ建設整備は市が主体となり計画・整備を行っている ・管きよ建設整備は全て国庫補助金を活用している ・受益者負担と事業費を検証しながら進めていることから、受益者1人あたりのコストは適正である ・宅地開発分譲地への管きよ整備の要望がある
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・下水道整備は、各家庭の快適な住環境整備に有効であり、水路をはじめとする公共水域の衛生、水質改善に大いに寄与している
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・今後整備を進める箇所は、受益者までの管路延長が長くなる箇所や、民間による宅地造成地が主となりコスト高が懸念されるため、下水道管きよの整備計画の見直しの必要がある
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・老朽化したマンホール蓋の計画的な更新
----------------------	---------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	事業コストの削減を念頭に、下水道未整備地区の解消に向け、下水道整備計画区域の見直し、合併浄化槽整備区域への変更を検討する
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・老朽化したマンホール蓋の計画的な更新					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	11220	処理場改造事業費	担当課	水道部下水道課	内線
種別	6	下水道事業特別会計	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
予算	会計	6	分野	5	上・下水道
	款	1	基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る
	項	1	施策	1	下水施設の整備
目	2	処理場建設事業費			
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画				
実施計画事業	下水道処理施設耐震化事業、下水道処理場改造事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	公共下水道処理区域内の市民	対象者数	62,843 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・耐用年数の経過等により老朽化及び機能が低下した宮川終末処理場の機器の更新及び延命化を行い、処理場の機能維持を図る		
概要	事業の実手法(手段)	・宮川終末処理場の老朽化した設備及び機器を計画的に更新を行うとともに長寿命化工事を実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・汚泥減量化のための消化槽増設工事を実施 ・処理場の脱臭設備増設工事を実施					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	施設の改修	件	目標値	6	6	3
				実績値	6	6	3
	成果指標	算出根拠等	設備の更新及び長寿命化工事の件数	達成率(%)	100	100	100
				目標値	1	1	1
	成果指標	算出根拠等	放流水の水質基準適合処理場	実績値	1	1	1
				達成率(%)	100	100	100
	成果指標	算出根拠等	水質検査の結果	目標値			
				実績値			
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
	成果指標	算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
	成果指標	算出根拠等		目標値			
実績値							
成果指標	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
成果指標	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
・通常の維持管理業務のほか、突発事故(停電、機器故障)発生時には速やかに対応した							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	262,479	507,816	670,401	
	受益者負担(使用料・負担金等)			14,049	33,079	33,882	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			248,430	474,737	636,519	
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	4,151	8,040	10,668	
	受益者		(B)	63,232	63,159	62,843	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・生活排水等の汚水を速やかに処理するためには、施設の機能維持は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設の維持管理は市町村が行うことが原則であり、公共水域の水質保全と市民の生活環境の向上のためにも非常に重要な事業である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・処理した水は排水基準に適合する水質を維持している ・コスト削減を図りながら適正に施設の維持管理を行っており、成果指標の数値は達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・長寿命化工事等、国の補助金を活用して行っている ・施設の運転管理は業者に委託しており、適切な管理がなされている ・軽微な修繕等は受益者が行っており、コスト削減と即座の対応を意識した取り組みを行っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画、市長公約に基づき、施設の整備と維持管理を行っているが、市民の生活環境の向上と公共用水域の水質保全のため、生活排水等の適正処理を行っていくことの政策的な重要性は高い
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が重要なかを記入)	・下水道事業整備5か年計画に基づき設備の更新は計画的に行っている ・施設は供用開始から時間が経過し老朽化が進んでいる設備が多いことから、更新計画については定期的に見直ししていく必要がある
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・将来を見据えて、適正な規模で計画的に長寿命化工事を進める必要がある
----------------------	------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・設備の更新及び長寿命化工事については、5か年計画に基づき計画通り進めている ・老朽化している設備の稼働状況の把握に努めている ・次期の下水道事業整備5か年計画を策定するため、設備の現状と稼働状況を把握するとともに、維持管理している現場の意見を取り入れ、効率的な維持管理方法の検討を行う
------------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・計画的に長寿命化工事を実施する					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	12100	特定環境保全管きよ建設事業	担当課	水道部下水道課	内線
種別					2267
予算	会計	6	下水道事業特別会計	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして
	款	1	下水道事業費	分野	5 上・下水道
	項	2	特定環境保全下水道施設費	基本施策	2 生活環境の向上と流域の水質保全を図る
	目	1	管きよ建設事業費	施策	1 下水施設の整備
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画				
実施計画事業	国府特定環境保全公共下水道整備事業。奥飛騨温泉郷特定環境保全公共下水道整備事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	特定環境保全公共下水道処理区域内の市民	対象者数	14,140 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	下水道の利用ができ快適な生活環境が確保されている		
概要	事業の実手法(手段)	国府処理区及び栃尾処理区の下水道未普及地区に下水道管きよを布設する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	国府町上広瀬地区内の管きよ整備 奥飛騨温泉郷神坂地区内の管きよ整備					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	下水道整備面積	ha	目標値	3	3	2
				実績値	3	3	2
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	100
	成果指標	下水道整備率	%	目標値	96	96	97
				実績値	95	96	96
	算出根拠等	整備済み世帯数/計画区域内世帯数		達成率(%)	99	100	99
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	107,828	113,654	189,226	
	受益者負担(使用料・負担金等)			27,333	12,986	14,023	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			80,495	100,668	175,203	
	一般財源						
	コスト指標		受益者1件当たり(円)	(A/B)	7,444	7,944	13,382
	受益者	特定環境保全公共下水道処理区域内の市民	(B)	14,485	14,307	14,140	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・各地域の市民ニーズは高いが、下水道利用には個人での宅内排水整備費が必要となるため下水道切り替え率が低い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・高山市の地形条件より、公共下水道は2以上の市町村が受益できる施設でないため、事業主体を見直す余地はない
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・下水道整備率は徐々に高くなり、100%近くとなっている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・埋設深、管路布設ルート等を検討しコスト縮減を図っている ・管きよ建設整備は市が主体となり計画、整備を行っている ・管きよ建設整備は全て国庫補助金を活用している ・受益者負担と事業費を検証しながら進めているが、地区によっては単年度ではバランスが取れていない
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・下水道整備は、各家庭の快適な住環境整備に有効であり、水路をはじめとする公共水域の衛生、水質改善に大いに寄与している
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)

・各地域の市民ニーズは高いが、下水道利用には個人での宅内排水整備費用が必要となり、高齢者世帯、資金不足を理由に下水道切り替えに至らないケースがあるため、将来的な維持管理に係る自己負担額の比較や融資制度の説明をして下水道接続率を上げる必要がある
・地区によっては事業費がコスト高となり、受益者負担とのバランスが取れていないが、処理区域全体の下水道接続率を上げることにより事業効率を上げる必要がある

(参考) H26事業評価結果(二次評価)

・下水道整備する上で、事前に住民の下水道参加同意を得て、整備コストを考えながら事業を進める

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況

・単年度単位では事業費と受益者負担とのバランスが取れていないが、下水道利用が可能となった箇所の接続率を上げる

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H26完了	<input type="checkbox"/> H27完了予定
	・下水道整備する上で、事前に住民の下水道接続同意を得て、整備コストを考えながら事業を進める					

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H26完了	<input type="checkbox"/> H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	21100	一般管理事務費		担当課	水道部下水道課		内線
種別	6	下水道事業特別会計		政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
会計	6	下水道事業特別会計		分野	5	上・下水道	
款	2	総務費		基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る	
項	1	総務管理費		施策	2	水洗化の普及	
目	1	一般管理費					
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画						
実施計画事業	水洗化普及促進事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	公共下水道、特定環境保全公共下水道処理区域内の市民	対象者数	76,983 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・下水道の受益者に対し、下水道事業受益者分担金・負担金及び下水道使用料を適正に賦課、徴収することで収入の確保を図り、安定した下水道事業の運営を行う ・整備した施設の有効利用と使用料収入が確保できるよう、水洗化の普及を促進してできるだけ多くの市民に下水道を使用してもらう		
概要	事業の実施手法(手段)	・受益者負担金・分担金及び使用料の賦課及び徴収を適正に行う ・下水道接続率の向上のため、水洗便所等改造資金融資あっせん制度の周知と下水道の利用促進を進める		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・下水道事業受益者分担金・負担金及び下水道使用料の適正な賦課、徴収 ・上下水道課が連携を図り、水道料金、下水道使用料の滞納整理を実施 ・水洗化啓発文書の送付、個別訪問等による水洗化普及の実施 ・未接続世帯へのアンケート調査を実施																																																																																																																																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">成果指標 下水道事業受益者分担金現年度収納率</td> <td rowspan="2">%</td> <td>目標値</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>92</td> <td>97</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2">収納額/調定額</td> <td>達成率(%)</td> <td>92</td> <td>97</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標 下水道事業受益者負担金現年度収納率</td> <td rowspan="2">%</td> <td>目標値</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>98</td> <td>99</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2">収納額/調定額</td> <td>達成率(%)</td> <td>98</td> <td>99</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標 下水道使用料現年度収納率</td> <td rowspan="2">%</td> <td>目標値</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>99</td> <td>99</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2">収納額/調定額</td> <td>達成率(%)</td> <td>99</td> <td>99</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活動指標 下水道接続率</td> <td rowspan="2">%</td> <td>目標値</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>86</td> <td>86</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2">下水道に接続した世帯数/下水道が使える世帯数</td> <td>達成率(%)</td> <td>86</td> <td>86</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="5">補足事項</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">コスト面</td> <td colspan="2">事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)</td> <td>H24 決算額</td> <td>H25 決算額</td> <td>H26 決算額</td> </tr> <tr> <td colspan="2">歳出(千円)</td> <td>(A) 99,572</td> <td>92,488</td> <td>85,409</td> </tr> <tr> <td colspan="2">受益者負担(使用料・負担金等)</td> <td>99,572</td> <td>92,488</td> <td>85,409</td> </tr> <tr> <td colspan="2">その他特定財源(国・県支出金・起債等)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">一般財源</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">コスト指標</td> <td>受益者1件当たり(円)</td> <td>(A/B) 1,281</td> <td>1,194</td> <td>1,109</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>受益者</td> <td>(B) 77,717</td> <td>77,466</td> <td>76,983</td> </tr> </tbody></table>					指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	成果指標 下水道事業受益者分担金現年度収納率	%	目標値	100	100	100	実績値	92	97	96	算出根拠等	収納額/調定額	達成率(%)	92	97	96					成果指標 下水道事業受益者負担金現年度収納率	%	目標値	100	100	100	実績値	98	99	97	算出根拠等	収納額/調定額	達成率(%)	98	99	97					成果指標 下水道使用料現年度収納率	%	目標値	100	100	100	実績値	99	99	99	算出根拠等	収納額/調定額	達成率(%)	99	99	99					活動指標 下水道接続率	%	目標値	100	100	100	実績値	86	86	87	算出根拠等	下水道に接続した世帯数/下水道が使える世帯数	達成率(%)	86	86	87					<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	算出根拠等		目標値				実績値						達成率(%)				補足事項					コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	歳出(千円)		(A) 99,572	92,488	85,409	受益者負担(使用料・負担金等)		99,572	92,488	85,409	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					一般財源					コスト指標		受益者1件当たり(円)	(A/B) 1,281	1,194	1,109			受益者	(B) 77,717	77,466	76,983
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26																																																																																																																																																											
	成果指標 下水道事業受益者分担金現年度収納率	%	目標値	100	100	100																																																																																																																																																											
			実績値	92	97	96																																																																																																																																																											
	算出根拠等	収納額/調定額	達成率(%)	92	97	96																																																																																																																																																											
	成果指標 下水道事業受益者負担金現年度収納率	%	目標値	100	100	100																																																																																																																																																											
			実績値	98	99	97																																																																																																																																																											
	算出根拠等	収納額/調定額	達成率(%)	98	99	97																																																																																																																																																											
成果指標 下水道使用料現年度収納率	%	目標値	100	100	100																																																																																																																																																												
		実績値	99	99	99																																																																																																																																																												
算出根拠等	収納額/調定額	達成率(%)	99	99	99																																																																																																																																																												
活動指標 下水道接続率	%	目標値	100	100	100																																																																																																																																																												
		実績値	86	86	87																																																																																																																																																												
算出根拠等	下水道に接続した世帯数/下水道が使える世帯数	達成率(%)	86	86	87																																																																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	算出根拠等		目標値				実績値						達成率(%)																																																																																																																																										
指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26																																																																																																																																																												
算出根拠等		目標値																																																																																																																																																															
		実績値																																																																																																																																																															
		達成率(%)																																																																																																																																																															
補足事項																																																																																																																																																																	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額																																																																																																																																																												
	歳出(千円)		(A) 99,572	92,488	85,409																																																																																																																																																												
	受益者負担(使用料・負担金等)		99,572	92,488	85,409																																																																																																																																																												
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)																																																																																																																																																																
一般財源																																																																																																																																																																	
コスト指標		受益者1件当たり(円)	(A/B) 1,281	1,194	1,109																																																																																																																																																												
		受益者	(B) 77,717	77,466	76,983																																																																																																																																																												

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・当事業は、下水道事業受益者分担金・負担金及び下水道使用料の適正な賦課、徴収を行い、下水道事業の安定した財源の確保、安定した運営を図ることを目的とするため、ニーズについては評価し難い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・下水道事業受益者分担金・負担金及び下水道使用料の適正な賦課、徴収は、下水道施設を整備し管理運営を行っている市が行うべきことである
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・下水道使用料収入は99%以上と高い収納率を確保している ・負担金及び分担金の収納率が前年より向上しているが、未収分について滞納整理により収入確保に努める必要がある ・市全体では供用開始後、下水道への接続利用がすすんでいるが、他と比較して接続が進んでいない地域がある
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・下水道事業受益者負担金電算業務や下水道使用料徴収事務業務の委託を行い、事務の効率化とコスト削減を図っているが、委託の内容等を見直し、さらに削減できるよう努める ・水洗便所等改造資金融資預託金は、融資残高に応じた必要最低限の預託とし、コスト削減を図っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・下水道事業の財源を確保することにより、安定した運営を図られているが、更なる収納率の向上に努めた ・下水道への接続率が向上することにより、公共用水域の水質保全、生活環境の向上が図られるとともに、使用料収入の増加につなげた
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 8	→	100点換算	75 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・恒常的な未納者に対し、電話連絡、給水停止、滞納処分などを行うとともに、期限内に納付するよう指導する必要がある ・委託の内容等を見直し、さらに削減できるよう努める必要がある ・下水道接続率を向上させるため、未接続の要因分析を行うとともに、接続率の低い地域に対して普及活動を行う必要がある
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・収納率向上に努める必要がある。 ・整備済地域の水洗化率向上を図る必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・定期的に滞納整理を実施するとともに、下水道使用料に関しては、上水道課と連携を図り、給水停止を実施しながら徴収強化を図っていく ・委託業務については、業務の効率化、費用の削減ができるよう対応する ・下水道等の管きよ布設は、下水道事業の趣旨説明を十分に行ううえで、地域で確実に接続していただける状況であることを確認してから施工する ・他の地域と比較して、下水道への接続率が低い地域を重点的に、戸別訪問による啓発活動を行う
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・課題について分析等を行うとともに、継続して事業を実施する					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・収納率向上に努める必要がある。 ・整備済地域の水洗化率向上を図る必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	22100	管きよ管理費		担当課	水道部下水道課	内線	2267
予算	会計	6	下水道事業特別会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
	款	2	総務費		分野	5	上・下水道
	項	2	下水道施設管理費		基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る
	目	1	管きよ管理費		施策	1	下水道施設の整備
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画						
実施計画事業	下水道施設管理事業(公共終末処理場)、下水道施設維持修繕・改修事業。雨水排水対策事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	公共下水道処理区域内の市民	対象者数	62,843 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・下水道の利用ができる状態を保ち、快適な生活環境が確保されている		
概要	事業の実手法(手段)	・管路やマンホールポンプの定期的な調査・清掃・保守点検を実施し必要に応じて修繕を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・マンホールポンプの清掃・保守点検 12回 (1回/月) ・管路施設カメラ調査 L=3.0km ・管きよ侵入止水修繕 N=36箇所					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	マンホールポンプの清掃・保守点検	回	目標値	12	12	12
		実績値	12	12	12		
	算出根拠等	1回/月	達成率(%)	100	100	100	
		マンホールポンプ故障等による汚水の流出	件	目標値	0	0	0
	成果指標	実績値	0	0	0		
		算出根拠等	汚水の流出件数	達成率(%)			
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	目標値					
実績値							
算出根拠等	目標値						
	実績値						
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	48,700	53,220	51,602	
	受益者負担(使用料・負担金等)			48,700	53,220	51,602	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	770	843	821	
	受益者		公共下水道処理区域内の市民 (B)	63,232	63,159	62,843	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・総合計画、市長公約ともに位置づけられている事項であり、「すみよさ」のあるまちを実現するためには下水道施設の維持管理は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・高山市の地形条件より、公共下水道は2以上の市町村が受益する施設でないため、事業主体を見直す余地はない
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・管路については、カメラ調査を行い随時修繕を行い、マンホールポンプは保守点検を行っているため、汚水流出等の問題は発生していない
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・マンホールポンプ等の修繕は、機種により特定のメーカーでしか修繕ができない場合があるが、施設管理に精通した委託業者による助言等により常にコスト縮減に取り組んでいる
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・下水道整備は、各家庭の快適な住環境整備に有効であり、水路をはじめとする公共水域の水質保全に大いに寄与している
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・マンホールポンプ等の修繕は、機種により特定のメーカーでしか修繕ができない場合があり、汎用品への切り替えが必要となる
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・コスト縮減を図っていく上で、既設設備の修繕と設備の機種等の変更改修との比較を行い設備の長寿命化に努める
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・コスト縮減を図っていく上で、既設設備の修繕と設備の機種等の変更改修との比較を行い設備の長寿命化に努める
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・コスト縮減を図っていく上で、既設設備の修繕と設備の機種等の変更改修との比較を行い設備の長寿命化に努める					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	22200	最終処理場管理費	担当課	水道部下水道課	内線
種別	6	下水道事業特別会計			2271
予算	会計	6	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
	款	2	分野	5	上・下水道
	項	2	基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る
	目	2	施策	1	下水道施設の整備
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画				
実施計画事業	下水道施設管理事業(公共最終処理場)、下水道施設維持修繕・改修事業、汚泥等有効活用事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	公共下水道処理区域内の市民	対象者数	62,843 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・施設(処理場)の適切な管理運営を行うことにより汚水が適正に処理され、公共用水域の水質保全と快適に暮らせる生活環境が確保されている ・適切に維持管理を行うことで、施設の健全化及び延命化を図る		
概要	事業の実手法(手段)	・施設の運転は止めることができないため、定期的な保守点検と清掃を実施するとともに、突発的におこる修繕に対応し、継続して汚水の処理を行う ・専門的知識を有する業者に運転管理を委託し、汚水を排水基準内に処理する ・汚水の処理に伴い発生する汚泥(産業廃棄物)を適切に処理する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	宮川終末最終処理場において、処理水は排水基準内であった。委託業者の定期的な保守点検作業により機器等の故障による処理停止もなく、適切な汚水の処理を行った					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	処理場数(施設)	施設	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	放流水の水質基準適合処理場	施設	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
				算出根拠等	水質検査の結果	達成率(%)	100
	成果指標	機器故障・停電等による水処理不能件数	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	事故報告件数	達成率(%)	
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
			実績値				
			算出根拠等	達成率(%)			
補足事項							
・通常の維持管理業務のほか、突発事故(停電、機器故障)発生時には速やかに対応した							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	238,914	243,841	257,639	
	受益者負担(使用料・負担金等)			238,914	243,841	257,639	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	3,778	3,861	4,100		
	受益者	(B)	63,232	63,159	62,843		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・生活排水等の汚水を速やかに処理するためには、施設の維持管理は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設の維持管理は市町村が行うことが原則であり、公共水域の水質保全と市民の生活環境の向上のためにも非常に重要な事業である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・処理した水は排水基準に適合する水質を維持している。 ・コスト削減を図りながら適正に施設の維持管理を行っており、成果指標の数値は達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・施設の運転管理は業者に委託しており、適切な管理がなされている ・軽微な修繕等は受託者が行っており、コスト削減と即座の対応を意識した取り組みを行っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画、市長公約に基づき、施設の整備と維持管理を行っているが、市民の生活環境の向上と公共用水域の水質保全のため、生活排水等の適正処理を行っていくことの政策的な重要性は高い
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることが必要なのかを記入)

機器の修繕にあたってはコストの削減に努めているが、設備数が多く、突発修繕が多く発生している状況である。計画的に設備の補修や部品等の交換を行うことにより修繕箇所を減らし、コスト削減を図る必要がある

(参考) H26事業評価結果(二次評価)

・処理場の適切な管理運営を継続するとともに、施設の延命化に努め、コストの削減を図る必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度への対応状況

・長期的な修繕計画を立てることにより、修繕費用の平準化を進めるとともに、より効率的な管理方法を検討している
・委託業者からもコスト削減に向けた事業提案を促している

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・施設の適切な管理運営を継続して行っていく。					

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・処理場の適切な管理運営を継続するとともに、施設の延命化に努め、コストの削減を図る必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	23100	特定環境保全管きよ管理費	担当課	水道部下水道課	内線
種別					2267
予算	会計	6	下水道事業特別会計	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして
	款	2	総務費	分野	5 上・下水道
	項	3	特定環境保全下水道施設管理費	基本施策	2 生活環境の向上と流域の水質保全を図る
	目	1	管きよ管理費	施策	1 下水道施設の整備
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画				
実施計画事業	下水道施設管理事業(特定環境保全終末処理場)、下水道施設維持修繕・改修事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	特定環境保全公共下水道処理区域内の市民	対象者数	14,140 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・下水道の利用ができる状態を保ち、快適な生活環境が確保されている		
概要	事業の実手法(手段)	・管路やマンホールポンプの定期的な調査・清掃・保守点検を実施し、必要に応じて修繕を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	マンホールポンプの清掃・保守点検 12回 (1回/月)					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	マンホールポンプの清掃・保守点検	回	目標値	12	12	12
				実績値	12	12	12
				算出根拠等	1回/月	達成率(%)	100
	成果指標	マンホールポンプ故障等による汚水の流出	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	汚水の流出件数	達成率(%)	
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等		達成率(%)	
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等		達成率(%)	
				目標値			
実績値							
算出根拠等					達成率(%)		
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	28,063	32,820	29,390	
	受益者負担(使用料・負担金等)			28,063	32,820	29,390	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,937	2,294	2,079	
	受益者	処理区域内の市民	(B)	14,485	14,307	14,140	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・総合計画、市長公約ともに位置づけられている事項であり、「すみよさ」のあるまちを実現するためには下水道施設の維持管理は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・高山市の地形条件より、公共下水道は2以上の市町村が受益する施設でないため、事業主体を見直す余地はない
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・マンホールポンプは保守点検を行っているため、汚水流出等の問題は発生していない
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・マンホールポンプ等の修繕は、機種により特定のメーカーでしか修繕ができない場合があるが、施設管理に精通した委託業者による助言等により常にコスト削減に取り組んでいる ・マンホールポンプ遠隔監視システムが老朽化により不具合が発生しており、システム更新の検討を行っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・下水道整備は、各家庭の快適な住環境整備に有効であり、水路をはじめとする公共水域の水質保全に大いに寄与している
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・器具の老朽化により、マンホールポンプの遠隔監視システムの不具合が発生しているため、低コストとなるシステム改良が必要となる
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・コスト削減を図っていく上で、既設設備の修繕と設備の機種等の変更改修との比較を行い設備の長寿命化に努める
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・コスト削減を図っていく上で、既設設備の修繕と設備の機種等の変更改修との比較を行い設備の長寿命化に努める
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・コスト削減を図っていく上で、既設設備の修繕と設備の機種等の変更改修との比較を行い設備の長寿命化に努める					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	23200	特定環境保全終末処理場管理費	担当課	水道部下水道課	内線
	種別				2271
予算	会計	6 下水道事業特別会計	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	2 総務費	分野	5 上・下水道	
	項	3 特定環境保全下水道施設管理費	基本施策	2 生活環境の向上と流域の水質保全を図る	
	目	2 処理場管理費	施策	1 下水道施設の整備	
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画				
実施計画事業	下水道施設管理事業(特定環境保全主末処理場)、下水道施設維持修繕・改修事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	特定環境保全公共下水道処理区域内の市民	対象者数	14,140 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・施設(処理場)の適切な管理運営を行うことにより汚水が適正に処理され、公共用水域の水質保全と快適に暮らせる生活環境が確保されている ・適切に維持管理を行うことで、施設の健全化及び延命化を図る		
概要	事業の実手法(手段)	・施設の運転は止めることができないため、定期的な保守点検と清掃を実施するとともに、突発的におこる修繕に対応し、継続して汚水の処理を行う ・専門的知識を有する業者に運転管理を委託し、汚水を排水基準内に処理する ・汚水の処理に伴い発生する汚泥(産業廃棄物)を適切に処理する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	各施設において、処理水は排水基準内であった 委託業者の定期的な保守点検作業により機器等の故障による処理停止もなく、適切な汚水の処理を行った					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	処理場数(施設)	施設	目標値	10	10	10
				実績値	10	10	10
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	放流水の水質基準適合処理場	施設	目標値	10	10	10
				実績値	10	10	10
				算出根拠等	水質検査の結果	達成率(%)	100
	成果指標	機器故障、停電等による水処理不能件数	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	事故報告件数	達成率(%)	
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
			実績値				
			算出根拠等	達成率(%)			
補足事項							
・通常の維持管理業務のほか、突発事故(停電、機器故障)発生時には速やかに対応した							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	181,288	185,408	194,776	
	受益者負担(使用料・負担金等)			181,288	185,408	194,776	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	12,516	12,959	13,775		
	受益者	(B)	14,485	14,307	14,140		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・生活排水等の汚水を速やかに処理するためには、施設の維持管理は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設の維持管理は市町村が行うことが原則であり、公共水域の水質保全と市民の生活環境の向上のためにも非常に重要な事業である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・処理した水は排水基準に適合する水質を維持している ・コスト削減を図りながら適正に施設の維持管理を行っており、成果指標の数値は達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・施設の運転管理は業者に委託しており、適切な管理がなされている ・軽微な修繕等は受益者が行っており、コスト削減と即座の対応を意識した取り組みを行っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画、市長公約に基づき、施設の整備と維持管理を行っているが、市民の生活環境の向上と公共用水域の水質保全のため、生活排水等の適正処理を行っていくことの政策的な重要性は高い
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることが必要なかを記入)	・機器の修繕にあたってはコストの削減に努めているが、突発修繕も多く発生している状況である ・計画的に設備の補修や部品等の交換を行うことにより修繕箇所を減らし、コスト削減を図る必要がある
-------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・処理場の適切な管理運営を継続するとともに、施設の延命化に努め、コストの削減を図る必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度への対応状況	・長期的な修繕計画を立てることにより、修繕費用の平準化を進めるとともに、より効率的な管理方法を検討している ・委託業者からもコスト削減に向けた事業提案を促している
-------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・施設の適切な管理運営を継続して行っていく					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・処理場の適切な管理運営を継続するとともに、施設の延命化に努め、コストの削減を図る必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	21100	一般管理事務費		担当課	水道部下水道課	内線	3364
種別	10	農業集落排水事業特別会計		政策	3	「すみよさ」のあるまちをめぐして	
会計	10	農業集落排水事業特別会計		分野	5	上・下水道	
款	2	総務費		基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る	
項	1	総務管理費		施策	2	水洗化のF普及	
目	1	一般管理費					
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画						
実施計画事業	水洗化普及促進事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	農業集落排水、簡易排水、小規模集合排水、個別排水処理区域内の市民	対象者数	9,934 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 農業集落排水事業の受益者に対し、受益者分担金及び農業集落排水使用料を適正に賦課、徴収することで収入の確保を図り、安定した農業集落排水事業の運営を行う 整備した施設の有効利用と使用料収入が確保できるよう、水洗化の普及を促進してできるだけ多くの市民に農業集落排水施設を使用してもらつ 		
概要	事業の実手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 受益者分担金及び使用料の賦課及び徴収を適正に行う 下水道接続率の向上のため、水洗便所等改造資金融資あっせん制度の周知と利用を促進する 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> 農業集落排水事業受益者分担金及び農業集落排水使用料の適正な賦課、徴収 上下水道課が連携を図り、水道料金、農業集落排水使用料の滞納整理を実施 水洗化啓発文書の送付、個別訪問等による水洗化普及の実施 未接続世帯へのアンケート調査を実施 					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	農業集落排水受益者分担金現年度収納率	%	目標値	100	100	100
		算出根拠等	収納額/額定額	実績値	100	72	100
	成果指標	農業集落排水使用料現年度収納率	%	目標値	100	100	100
		算出根拠等	水質検査の結果	実績値	100	100	100
	成果指標	農業集落排水施設等接続率	%	目標値	100	100	100
		算出根拠等	農業施設に接続した世帯数/農業施設が使える世帯数	実績値	89	89	90
	算出根拠等			達成率(%)	89	89	90
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	11,939	11,645	12,231	
	受益者負担(使用料・負担金等)			11,939	11,645	12,231	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,174	1,161	1,231	
	受益者	処理区域内の市民	(B)	10,166	10,027	9,934	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・当事業は、農業集落排水事業受益者分担金及び農業集落排水使用料の適正な賦課、徴収を行い、農業集落排水事業の安定した財源の確保、運営を図ることを目的とするため、ニーズについては評価が難しい
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・農業集落排水事業受益者分担金及び農業集落排水使用料の適正な賦課、徴収は農業集落排水施設を整備し、管理運営を行っている市が行うべきことである
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・使用料収入は99%以上と高い収納率を確保しているが、受益者分担金については収納率が低下している ・接続率は、向上したが、伸びは鈍化してきている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・農業集落排水使用料徴収業務を上水道課に委託し、事務の効率化とコスト削減を図っている ・水洗便所等改造資金融資預託金は、融資残高に応じた必要最低限の預託とし、コスト削減を図っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・農業集落排水事業の財源を確保することにより、安定した運営を図るため、更なる収納率の向上に努めた ・接続率が向上することにより、公共用水域の水質保全、生活環境の向上が図られるとともに、使用料収入の増加につなげた
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 8	→	100点換算	75 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	<ul style="list-style-type: none"> 恒常的な未納者に対し、電話連絡、給水停止などを行うとともに期限内に納付するように指導する必要がある 委託の内容等を見直し、さらに削減できるよう努める必要がある 接続率を向上させるため、未接続の要因分析を行うとともに、接続率の低い地域に対して普及活動を行う必要がある
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> 収納率向上に努める必要がある。 整備済地域の水洗化率向上を図る必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に滞納整理を実施するとともに、使用料に関しては、上水道課と連携を図り、給水停止を実施しながら徴収強化を図っていく 委託業務については、業務の効率化、費用の削減ができるよう対応する 接続率の低い地域に対する普及強化を行う
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・課題について分析等を行うとともに、継続して事業を実施する					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 収納率向上に努める必要がある。 整備済地域の水洗化率向上を図る必要がある。 					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	22100	農業集落排水管きよ管理費	担当課	水道部下水道課	内線
種別					2267
予算	会計	10 農業集落排水事業特別会計	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	2 総務費	分野	5 上・下水道	
	項	2 農業集落排水施設管理費	基本施策	2 生活環境の向上と流域の水質保全を図る	
	目	1 農業集落排水施設管理費	施策	1 下水施設の整備	
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画				
実施計画事業	下水道施設管理事業(農業集落排水施設)、下水道施設維持修繕・改修事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	農業集落排水処理区域内の市民	対象者数	9,315 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	農業集落排水施設の利用ができる状態を保ち、快適な生活環境が確保されている		
概要	事業の実手法(手段)	管路やマンホールポンプの定期的な調査・保守点検を実施し、必要に応じて修繕を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	マンホールポンプの清掃・保守点検 12回 (1回/月)					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	マンホールポンプの清掃・保守点検	回	目標値	12	12	12
				実績値	12	12	12
				算出根拠等	1回/月	達成率(%)	100
	成果指標	マンホールポンプ故障等による汚水の流出	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	汚水の流出件数	達成率(%)	
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等		達成率(%)	
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等		達成率(%)	
				目標値			
実績値							
算出根拠等					達成率(%)		
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	24,646	27,251	47,089	
	受益者負担(使用料・負担金等)			24,646	27,251	47,089	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	2,585	2,898	5,055	
	受益者	処理区域内の市民	(B)	9,536	9,402	9,315	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・総合計画、市長公約ともに位置づけられている事項であり、「すみよさ」のあるまちを実現するためには下水道施設の維持管理は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・高山市の地形条件より、農業集落排水施設は2以上の市町村が受益する施設でないため、事業主体を見直す余地はない
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・マンホールポンプは保守点検を行っているため、汚水流出等の問題は発生していない
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・マンホールポンプ等の修繕は、機種により特定のメーカーでしか修繕ができない場合があるが、施設管理に精通した委託業者による助言等により常にコスト縮減に取り組んでいる
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・下水道整備は、各家庭の快適な住環境整備に有効であり、水路をはじめとする公共水域の水質保全に大いに寄与している
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・マンホールポンプ等の修繕は、機種により特定のメーカーでしか修繕ができない場合があり、汎用品への切り替えが必要となる
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・コスト縮減を図っていく上で、既設設備の修繕と設備の機種等の変更改修との比較を行い設備の長寿命化に努める
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・コスト縮減を図っていく上で、既設設備の修繕と設備の機種等の変更改修との比較を行い設備の長寿命化に努める
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・コスト縮減を図っていく上で、既設設備の修繕と設備の機種等の変更改修との比較を行い設備の長寿命化に努める					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	22105	農業集落排水処理場管理費	担当課	水道部下水道課	内線
種別	10	農業集落排水事業特別会計	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
会計	10	農業集落排水事業特別会計	分野	5	上・下水道
款	1	総務費	基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る
項	2	農業集落排水施設管理費	施策	1	下水施設の整備
目	1	農業集落排水施設管理費			
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画				
実施計画事業	下水道施設管理事業(農業集落排水施設)、下水道施設維持修繕・改修事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	農業集落排水処理区域内の市民	対象者数	9,315 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・施設(処理場)の適切な管理運営を行うことにより汚水が適正に処理され、公共用水域の水質保全と快適に暮らせる生活環境が確保されている ・適切に維持管理を行うことで、施設の健全化及び延命化を図る		
概要	事業の実手法(手段)	・施設の運転は止めることができないため、定期的な保守点検と清掃を実施するとともに、突発的におこる修繕に対応し、継続して汚水の処理を行う ・専門的知識を有する業者に運転管理を委託し、汚水を排水基準内に処理する ・汚水の処理に伴い発生する汚泥(産業廃棄物)を適切に処理する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	各施設において、処理水は排水基準内であった 委託業者の定期的な保守点検作業により機器等の故障による処理停止もなく、適切な汚水の処理を行った					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	処理場数(施設)	施設	目標値	26	26	26
				実績値	26	26	26
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	放流水の水質基準適合処理場	施設	目標値	26	26	26
				実績値	26	26	26
				算出根拠等	水質検査の結果	達成率(%)	100
	成果指標	機器故障、停電等による水処理不能件数	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	事故報告件数	達成率(%)	
	成果指標			目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	成果指標			目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
・通常の維持管理業務のほか、突発事故(停電、機器故障)発生時には速やかに対応した							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	158,138	161,485	172,162	
	受益者負担(使用料・負担金等)			158,138	161,485	172,162	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A./B)	16,583	17,176	18,482	
	受益者	処理区域内の市民	(B)	9,536	9,402	9,315	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・生活排水等の汚水を速やかに処理するためには、施設の維持管理は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設の維持管理は市町村が行うことが原則であり、公共水域の水質保全と市民の生活環境の向上のためにも非常に重要な事業である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・処理した水は排水基準に適合する水質を維持している ・コスト削減を図りながら適正に施設の維持管理を行っており、成果指標の数値は達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・施設の運転管理は業者に委託しており、適切な管理がなされている ・軽微な修繕等は受益者が行っており、コスト削減と即座の対応を意識した取り組みを行っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画、市長公約に基づき、施設の整備と維持管理を行っているが、市民の生活環境の向上と公共水域の水質保全のため、生活排水等の適正処理を行っていくことの政策的重要性は高い
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が重要なかを記入)	・機器の修繕にあたってはコストの削減に努めているが、突発修繕も頻発している状況である ・計画的に設備の補修や部品等の交換を行うことにより修繕箇所を減らし、コスト削減を図る必要がある
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・処理施設の適切な管理運営を継続して行っていく
----------------------	-------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・長期的な修繕計画を立てることにより、修繕費用の平準化を進めるとともに、より効率的な管理方法を検討している ・委託業者からもコスト削減に向けた事業提案を促している
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・処理施設の適切な管理運営を継続して行っていく					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	22200	簡易排水施設管理費		担当課	水道部下水道課		内線
種別							2971
予算	会計	10	農業集落排水事業特別会計	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	1	総務費	分野	5	上・下水道	
	項	2	農業集落排水施設管理費	基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る	
	目	2	簡易排水施設管理費	施策	1	下水施設の整備	
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画						
実施計画事業	下水道施設管理事業(簡易排水施設)、下水道施設維持修繕・改修事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	簡易排水処理区域内の市民	対象者数	165人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・施設(処理場)の適切な管理運営を行うことにより汚水が適正に処理され、公共用水域の水質保全と快適に暮らせる生活環境が確保されている ・適切に維持管理を行うことで、施設の健全化及び延命化を図る		
概要	事業の実手法(手段)	・施設の運転は止めることができないため、定期的な保守点検と清掃を実施するとともに、突発的におこる修繕に対応し、継続して汚水の処理を行う ・専門的知識を有する業者に運転管理を委託し、汚水を排水基準内に処理する ・汚水の処理に伴い発生する汚泥(産業廃棄物)を適切に処理する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	各施設において、処理水は排水基準内であった 委託業者の定期的な保守点検作業により機器等の故障による処理停止もなく、適切な汚水の処理を行った					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	処理場数(施設)	施設	目標値	4	4	4
				実績値	4	4	4
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	放流水の水質基準適合処理場	施設	目標値	4	4	4
				実績値	4	4	4
				算出根拠等	水質検査の結果	達成率(%)	100
	成果指標	機器故障、停電等による水処理不能件数	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	事故報告件数	達成率(%)	
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
・通常の維持管理業務のほか、突発事故(停電、機器故障)発生時には速やかに対応した							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	3,443	3,523	3,649	
	受益者負担(使用料・負担金等)			3,443	3,523	3,649	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A./B)	20,867	21,482	22,115	
	受益者	処理区域内の市民	(B)	165	164	165	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・生活排水等の汚水を速やかに処理するためには、施設の維持管理は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設の維持管理は市町村が行うことが原則であり、公共水域の水質保全と市民の生活環境の向上のためにも非常に重要な事業である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・処理した水は排水基準に適合する水質を維持している ・コスト削減を図りながら適正に施設の維持管理を行っており、成果指標の数値は達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・施設の運転管理は業者に委託しており、適切な管理がなされている ・軽微な修繕等は受益者が行っており、コスト削減と即座の対応を意識した取り組みを行っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画、市長公約に基づき、施設の整備と維持管理を行っているが、市民の生活環境の向上と公共水域の水質保全のため、生活排水等の適正処理を行っていくことの政策的重要性は高い
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 8	→	100点換算 88点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が重要なかを記入)	・機器の修繕にあたってはコストの削減に努めているが、突発修繕も頻発している状況である ・計画的に設備の補修や部品等の交換を行うことにより修繕箇所を減らし、コスト削減を図る必要がある

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・処理施設の適切な管理運営を継続して行っていく
----------------------	-------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・長期的な修繕計画を立てることにより、修繕費用の平準化を進めるとともに、より効率的な管理方法を検討している ・委託業者からもコスト削減に向けた事業提案を促している
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・処理施設の適切な管理運営を継続して行っていく					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	22300	小規模集合排水施設管理費	担当課	水道部下水道課	内線
種別	10	農業集落排水事業特別会計	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
会計	10	農業集落排水事業特別会計	分野	5	上・下水道
款	1	総務費	基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る
項	2	農業集落排水施設管理費	施策	1	下水施設の整備
目	3	小規模集合排水施設管理費			
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画				
実施計画事業	下水道施設管理事業(小規模集合排水施設)、下水道施設維持修繕・改修事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小規模集合排水処理区域内の市民	対象者数	286 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・施設(処理場)の適切な管理運営を行うことにより汚水が適正に処理され、公共用水域の水質保全と快適に暮らせる生活環境が確保されている ・適切に維持管理を行うことで、施設の健全化及び延命化を図る		
概要	事業の実手法(手段)	・施設の運転は止めることができないため、定期的な保守点検と清掃を実施するとともに、突発的におこる修繕に対応し、継続して汚水の処理を行う ・専門的知識を有する業者に運転管理を委託し、汚水を排水基準内に処理する ・汚水の処理に伴い発生する汚泥(産業廃棄物)を適切に処理する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	各施設において、処理水は排水基準内であった 委託業者の定期的な保守点検作業により機器等の故障による処理停止もなく、適切な汚水の処理を行った					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	処理場数(施設)	施設	目標値	9	9	9
				実績値	9	9	9
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	放流水の水質基準適合処理場	施設	目標値	9	9	9
				実績値	9	9	9
				算出根拠等	水質検査の結果	達成率(%)	100
	成果指標	機器故障、停電等による水処理不能件数	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	事故報告件数	達成率(%)	
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	算出根拠等			目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
・通常の維持管理業務のほか、突発事故(停電、機器故障)発生時には速やかに対応した							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	7,864	7,425	8,286	
	受益者負担(使用料・負担金等)			7,864	7,425	8,286	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A./B)	26,840	25,341	28,972	
	受益者	処理区域内の市民	(B)	293	293	286	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・生活排水等の汚水を速やかに処理するためには、施設の維持管理は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設の維持管理は市町村が行うことが原則であり、公共水域の水質保全と市民の生活環境の向上のためにも非常に重要な事業である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・処理した水は排水基準に適合する水質を維持している ・コスト削減を図りながら適正に施設の維持管理を行っており、成果指標の数値は達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・施設の運転管理は業者に委託しており、適切な管理がなされている ・軽微な修繕等は受益者が行っており、コスト削減と即座の対応を意識した取り組みを行っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画、市長公約に基づき、施設の整備と維持管理を行っているが、市民の生活環境の向上と公共水域の水質保全のため、生活排水等の適正処理を行っていくことの政策的な重要性は高い
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が重要なかを記入)	・機器の修繕にあたってはコストの削減に努めているが、突発修繕も頻発している状況である ・計画的に設備の補修や部品等の交換を行うことにより修繕箇所を減らし、コスト削減を図る必要がある
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・処理施設の適切な管理運営を継続して行っていく
----------------------	-------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・長期的な修繕計画を立てることにより、修繕費用の平準化を進めるとともに、より効率的な管理方法を検討している ・委託業者からもコスト削減に向けた事業提案を促している
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・処理施設の適切な管理運営を継続して行っていく					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	22400	個別排水施設管理費		担当課	水道部下水道課	内線	2971
予算	会計	10	農業集落排水事業特別会計	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	1	総務費	分野	5	上・下水道	
	項	2	農業集落排水施設管理費	基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る	
	目	4	個別排水施設管理費	施策	1	下水施設の整備	
根拠計画	高山市下水道事業整備5か年計画						
実施計画事業	下水道施設管理事業(個別排水施設)、下水道施設維持修繕・改修事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	個別排水処理区域内の市民	対象者数	168 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・施設(処理場)の適切な管理運営を行うことにより汚水が適正に処理され、公共用水域の水質保全と快適に暮らせる生活環境が確保されている ・適切に維持管理を行うことで、施設の健全化及び延命化を図る		
概要	事業の実手法(手段)	・施設の運転は止めることができないため、定期的な保守点検と清掃を実施するとともに、突発的におこる修繕に対応し、継続して汚水の処理を行う ・専門的知識を有する業者に運転管理を委託し、汚水を排水基準内に処理する ・汚水の処理に伴い発生する汚泥(産業廃棄物)を適切に処理する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	各施設において、処理水は排水基準内であった 委託業者の定期的な保守点検作業により機器等の故障による処理停止もなく、適切な汚水の処理を行った					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	処理場数(施設)	施設	目標値	57	57	57
				実績値	57	57	57
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	放流水の水質基準適合処理場	施設	目標値	57	57	57
				実績値	57	57	57
				算出根拠等	水質検査の結果	達成率(%)	100
	成果指標	機器故障、停電等による水処理不能件数	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	事故報告件数	達成率(%)	
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
・通常の維持管理業務のほか、突発事故(停電、機器故障)発生時には速やかに対応した							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	4,635	4,776	4,944	
	受益者負担(使用料・負担金等)			4,635	4,776	4,944	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A./B)	26,948	28,429	29,429	
	受益者	処理区域内の市民	(B)	172	168	168	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・生活排水等の汚水を速やかに処理するためには、施設の維持管理は必要不可欠である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設の維持管理は市町村が行うことが原則であり、公共水域の水質保全と市民の生活環境の向上のためにも非常に重要な事業である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・処理した水は排水基準に適合する水質を維持している ・コスト削減を図りながら適正に施設の維持管理を行っており、成果指標の数値は達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・施設の運転管理は業者に委託しており、適切な管理がなされている ・軽微な修繕等は受益者が行っており、コスト削減と即座の対応を意識した取り組みを行っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・総合計画、市長公約に基づき、施設の整備と維持管理を行っているが、市民の生活環境の向上と公共水域の水質保全のため、生活排水等の適正処理を行っていくことの政策的重要性は高い
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が重要なかを記入)	・機器の修繕にあたってはコストの削減に努めているが、突発修繕も頻発している状況である ・計画的に設備の補修や部品等の交換を行うことにより修繕箇所を減らし、コスト削減を図る必要がある
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・処理施設の適切な管理運営を継続して行っていく
----------------------	-------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度への対応状況	・長期的な修繕計画を立てることにより、修繕費用の平準化を進めるとともに、より効率的な管理方法を検討している ・委託業者からもコスト削減に向けた事業提案を促している
-------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・処理施設の適切な管理運営を継続して行っていく					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					